

年 月 日

消防署長 様

所在地

名称

氏名

連絡先

火災損害申告書

火災損害等について、下記及び別添のとおり申告します。

記

【記入必須項目】

り災年月日	年 月 日	り災物件との関係	所有者	占有者	管理者
り災場所					
火災保険 契約状況	保険会社名	契約年月	保険金額		
			動産	不動産	
		年 月	万円	万円	
		年 月	万円	万円	
		年 月	万円	万円	
		年 月	万円	万円	

【裏面に説明事項あり】

【注意事項】

- 1 この申告書については、消防法第34条に基づき、各種損害や火災保険の加入状況を調査するため、任意により提出を求めるものです。提出なされない場合は、消防法第34条の規定により、強制的に申告を求める場合があります。
- 2 この申告書の提出がなければ、り災証明書の交付が著しく遅れる可能性があります。り災証明書をお求めの方は速やかに提出していただきますようお願いいたします。
- 3 この申告書の内容を参考に損害額を算出しますが、消防が行う損害額の算出は、火災予防や消火活動の技術向上などを目的として行うもので、保険会社が行う保険金額の査定とは関係がありませんのでご理解をお願いいたします。火災保険の契約内容については、契約保険会社にお問い合わせください。

【記載要領】

- 1 り災年月日は、損害を受けた日を記入してください。
- 2 り災物件との関係は、り災物件と届出者との関係を次の中から選定し○を記入してください。
 - (1) 所有者
り災物件を所有している者
 - (2) 占有者
賃貸・レンタル契約等によって、共同住宅などを借り日常的に使用している者
 - (3) 管理者
所有も占有もしていないが、契約などによってり災物件を管理している者
- 3 り災場所は、住居表示（住所）もしくは地番を記入してください。
- 4 保険会社名は、正式名称を記入してください。
- 5 契約年月は、火災保険を契約した年・月を記入してください。また、保険金額は、保険証書などを焼失・紛失した場合など詳細がわからないときは、おおよその金額を記入してください。
なお、保険証書などが残存している場合、写しを添付することで記入を省略していただいて結構です。

● 記入要領等、ご不明な点は下記連絡先までご連絡ください。

() 消防署（分署） 警防担当 ()

連絡先 072- - (ガイダンス 番)

様式第9号（その2）（第17条関係）建物

【建物が損害を受けた場合は記入してください。】

建築時の状況													
建築年月		年 月		取得（購入）金額				万円					
取得後の経過													
増築	年 月		箇所					金額	万円				
	年 月			箇所					金額	万円			
り災前の概要													
構造				屋根				外壁					
用途				建築面積	㎡			延べ面積	㎡			総階数	
り災世帯及び人員		世帯		男	人		女	人		計	人		

【記入要領】

1 建築時の状況

- (1) 「建築年月」の欄には、り災建物が完成したときの年と月を記入してください。
- (2) 「取得（購入）金額」の欄には、り災建物を取得（購入）したときの金額を記入してください。

2 取得後の経過

- (1) 「増築」欄には、り災建物を取得後に増築した場合において、年月や箇所、修繕にかかった金額（人件費や機材費を除く）を概算で記入してください。増築歴がない場合、記入の必要はありません。

なお、ここでの増築は、建築物の床面積を増加させる工事のことを指します。

（例）

増築	令和	5	年	7	月	箇所	寝室約15㎡				金額	400	万円
----	----	---	---	---	---	----	--------	--	--	--	----	-----	----

- (2) 「改築」欄には、り災建物を取得後に改築した場合において、年月や箇所、改築にかかった金額（人件費や機材費を除く）を概算で記入してください。改築歴がない場合、記入の必要はありません。

なお、ここでの改築は、解体、除去または火災で焼失した建築物を以前の用途、規模等を維持しながら立て直すことを指します。

（例）

改築	令和	6	年	12	月	箇所	住宅1棟（20坪）				金額	1500	万円
----	----	---	---	----	---	----	-----------	--	--	--	----	------	----

3 り災前の概要

- (1) 「構造」欄には、鉄骨造、鉄筋コンクリート造、木造などを記入してください。
- (2) 「用途」欄には、住宅、共同住宅、店舗、倉庫、工場、店舗兼住宅のように実際に使用している用途を記入してください。
- (3) 「建築面積」欄には、建物の1階部分の面積を記入してください。
- (4) 「延べ面積」欄には、建物の各階各区分をすべて足した面積を記入してください。
- (5) 「り災世帯及び人員」欄には、原則として生計を同じくする者をまとめ1世帯として、世帯数と人員を記入してください。

（例）

構造	木造		屋根	瓦葺			外壁	モルタル							
用途	住宅		建築面積	100		㎡	延べ面積	200		㎡	階数	2			
り災世帯及び人員	1		世帯	男	2		人	女	2		人	計	4		人

【記入要領】

- 1 この申告書は、り災した建物1棟ごとに作成してください。また、1枚で記入欄が足りない場合は、同じ様式を付け加えてください。(賃貸の場合は、契約し占有している範囲内の損害を申告してください。)
- 2 品名欄は物品の一般的な名称を記入してください。
例) 冷蔵庫、掃除機、木製棚、衣服、かばん、靴、など
- 3 購入時の明細書などが残存していない場合や購入金額が明確でない場合は、おおよその金額の記入で結構です。
- 4 使用年数は切り上げて記入してください。
例) 2年2か月使用している場合は、3年
- 5 「損害の種別」欄は、次の中から適当なものを選定し○を記入してください。
 - (1) 焼き
火災の火炎、高熱等によって焼けた、こわれた、すすけた、変質したもの。
 - (2) 消火
火災の消火行為に付随して発生する水損、破損、汚損等があったもの。
 - (3) 爆発
爆発現象の破壊作用によって発生した損害のうち、焼き、消火以外の損害をいう。

【記入要領】

1 車両等のり災状況

- (1) 「種別」の欄は、車両、船舶及び航空機のうちから該当するものに○をつけてください。
- (2) 「登録番号」欄には、車両の場合はナンバープレート、船舶の場合は船体識別番号、航空機の場合は機体記号を記入してください。
- (3) 「年式」欄は、物件が製造された年を記入してください。
- (4) 「型式」欄は、不明な場合は一般的な範囲で記入してください。

例) 車両の場合、日産セレナ、トヨタ クラウンなど

2 積載物のり災状況

- (1) 品名欄は積載物の一般的な名称を記入してください。
例) かばん、靴、ダンボール、携帯電話など
- (2) 記入欄が足りない場合は、同じ様式を付け加えてください。

様式第9号（その5）（第17条関係）林野又は立木

【林野又は立木が損害を受けた場合は記入してください。】

林野等のり災状況						
樹種	樹齢		焼損面積		焼損本数	
		年		m ²		本
		年		m ²		本
		年		m ²		本
		年		m ²		本
		年		m ²		本
		年		m ²		本
		年		m ²		本
		年		m ²		本

【記入要領】

1 樹種

樹木の種類を記入してください。

例) すぎ、ひのき、まつ等

2 樹齢

樹木が芽生えてから経過した年数を記入してください。（確定的でなければ、おおよその年数を記入してください。）

3 焼損面積及び焼損本数

(1) 一見して焼損した樹木の本数がわかる場合

焼損面積欄を空白とし、焼損本数欄に記入してください。

(2) 一見して焼損した樹木の本数がわからない場合

焼損面積欄に記入し、焼損本数欄を空白としてください。（広範囲の場合は、おおよその面積を記入してください。）

4 備考

1 a = 100 m²

1 ha = 100 a = 10000 m²

【記入要領】

1 1枚で記入欄が足りない場合は、同じ様式を付け加えてください。

2 品名欄は物品の一般的な名称を記入してください。

例) ベンチ、フェンス、柵など

3 購入時の明細書等が残存していない場合などで購入金額が明確でないときは、思い出せる範囲でおおよその金額の記入をお願いします。

4 使用年数は切り上げて記入してください。

例) 2年2か月使用している場合は、3年

5 「損害の種別」欄は、次の中から適当なものを選定し○を記入してください。

(1) 焼き

火災の火炎、高熱等によって焼けた、こわれた、すすけた、変質したもの。

(2) 消火

火災の消火行為に付随して発生する水損、破損、汚損等があったもの。

(3) 爆発

爆発現象の破壊作用によって発生した損害のうち、焼き、消火以外で損害を受けたもの。